とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	武蔵野どろんこ保育園
施設所在地	東京都西東京市新町5-14-14
法人名	社会福祉法人どろんこ会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

畑と食育

＜テーマの設定理由＞

どろんこ会が掲げる6つの力の一つ「自分でできることは自分でする」に基づき、当園では【畑仕事】への意欲的な取り組みを特色としている。
子ども自身が収穫した食材の調理過程に触れ、「何が作られるのか」「何を作ることができるのか」を五感を通して多様に感得することをねらいとしている。

２．活動スケジュール

みかんジャムつくりに関して：2026/1/20～2026/1/23
※上記期間にかかわらず水やりなど、継続的に実施している。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備した道具：調理器具・机・砂糖・ジップロック・タッパー
素材：みかん
環境：2歳児～5歳児までが同じ環境で食育活動に取り組めるよう、幼児は椅子に座り、2歳児はマットの上に座り、安全に観察できるようにした。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

① みかんの皮を剥く
② みかんをジップロックに入れる
③ みかんを潰す
④ 潰したみかんをザルで漉し、みかん液と房、種を分ける。
⑤ みかん液を鍋に移し、液の総量の1/2量の砂糖（三温糖）を入れ、ふつふつするまで混ぜる。
⑥ とろみがついたら、器に移し、冷蔵庫で冷やして完成。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

実施中、みかんの匂いを嗅いで「いいにおい」と会話を交わす姿や、加熱中のみかん汁の匂いから「サツマイモのレモン煮」の匂いを連想し、「おいものにおい」と表現する5歳児の姿があった。
また、加熱や砂糖の投入による状態の変化に気づき、「ぽこぽこしてるね」と発見を周囲の友だちや保育者と共有する姿が見られた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・加熱されたみかんの匂いをかいで、他の料理を想像する子どもの発想力に驚いた。
・ジャムを混ぜる体験や、みかんを潰す体験より前に、みかんの皮をむくことや、ジップロックに移すことなど、子どもが参加できる部分が多くあったと感じた。次回以降は子どもが参加できる場面を増やしていきたい。
・みかん収穫時、高い場所にみかんがあり、収穫しにくそうにしている年下の友だちを見つけて、年上の友達が収穫を手伝ってあげるなど、異年齢でのかかわりや、他者を思いやる気持ちが育まれていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	武蔵野どろんこ保育園
施設所在地	東京都西東京市新町5-14-14
法人名	社会福祉法人どろんこ会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

畑と食育

＜テーマの設定理由＞

どろんこ会で取り組んでいる人間力を育てる保育内容に畑仕事を体験する特色がある。子どもが自分で種をまき、水をやり、収穫し、食べるという命の循環を実際に体験し、生きる力を身に着けてほしいため。

２．活動スケジュール

サツマイモ　種まき・水やり　5/12～10/22
　　収穫　10/22
　　たき火・焼き芋　11/10

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備した道具　アルミホイル、新聞紙、落ち葉、マッチ、軍手、ジョウロ、スコップ
素材　サツマイモ
環境　火の取り扱い方を丁寧に伝え、子どもと約束事を決めてから活動に取り組んでいる。全員がサツマイモに触れることができるように配慮をおこなった。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

春に種まきをおこない、毎日の畑仕事として水やりをおこなった。
夏の熱い日にも午前中に水やり、草抜きをおこない、サツマイモの成長を見届けた。
秋になりクラスごとに収穫日程を話し合い、収穫をおこなった。
たき火活動と併用して焼き芋作り、実食をおこなった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

水やりを通じてサツマイモの葉が成長していく姿に興味津々になる子どもの姿が見られた。いつ食べれるの？と収穫を楽しみにしていた。2歳児の収穫では茎を引っ張ると土の中からサツマイモが出てきたことに驚き、疑問を持つ場面があった。焼き芋作りでは半焼けになってしまい、失敗する姿もあったが、次はどうすればいいのか考える体験に繋げていった。

畑仕事：「めがでたね」「おおきくなあれ」と作物の成長や成長の願いを言葉に出している姿があった。ジョウロは使い終わった後に友だちに渡す姿が見られる。収穫の時には「にんじんの匂いがする」と言っている子どももいた。
ジャム作り：にんじんを潰す際「あったかい」「やわらかい」と感触の感想を言葉に出していた。鍋で煮詰めている工程では「何になるの？」「いいにおい」と期待を持った様子で見ていた。出来たジャムを食べたときは「おいしい！」と嬉しそうに食べている姿が見られた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・長期間の畑仕事をおこなうことでお店に並んでいる野菜を作ることの難しさを子どもが実際に体験して知る機会を作ることができた。
・収穫ではサツマイモの大きさに、小さい・大きい・細い・長いなど形の違いに気付く姿が見られた。子ども同士で気付きを話し合っていた。
・焼き芋ではいつもは食べないが自分で作ったから食べてみるという子どもの姿があった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	武蔵野どろんこ保育園
施設所在地	東京都西東京市新町5－14－14
法人名	社会福祉法人どろんこ会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

にんじんを育て、収穫し、調理し、食べる。

＜テーマの設定理由＞

初めての畑仕事に期待を持っている子どもたちが多く、率先して行う姿があった。園で畑仕事に力を入れており、様々な野菜が植わっていることからにんじんだけでなく様々な野菜に興味を持つことが出来ていた。散歩の中でも地域の畑を見ると「ブロッコリーだね」と園に植わっているものと照らし合わせて見ている姿があった。

２．活動スケジュール

９月　にんじんの種まきを行い、活動の中で水やりをしていった。
10月　芽が出てきたので子どもたちと間引きを行う。
11月　２回目の間引きを行う。
1月　収穫を行う。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

にんじんの種、土、ジョウロ、水を用意した。
ジョウロは子どもたちの手の届く場所においておき、水も子どもたちが自分で入れることができるように環境作りをしていった。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

にんじんを育てる段階では、種まきから子どもたちができるようにした。水やりや間引き、雑草抜きを通して畑仕事に子どもたちが関わることができるようにしていった。
収穫後はジャム作りを行い、保育者が切るところゆでるところを見た後に子どもたちが潰す工程を行った。鍋で煮詰め、みんなで食べる事を楽しんだ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

畑仕事：「めがでたね」「おおきくなあれ」と作物の成長や成長の願いを言葉に出している姿があった。ジョウロは使い終わった後に友だちに渡す姿が見られる。収穫の時には「にんじんの匂いがする」と言っている子どももいた。
ジャム作り：にんじんを潰す際「あったかい」「やわらかい」と感触の感想を言葉に出していた。鍋で煮詰めている工程では「何になるの？」「いいにおい」と期待を持った様子で見ていた。出来たジャムを食べたときは「おいしい！」と嬉しそうに食べている姿が見られた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

１歳児で、初めての畑仕事だった。初めはジョウロもうまく使えずに水をこぼしてしまう姿が多かったが、やっていくうちに水を入れるところまでできるようになっていった。大人がまだできない、と判断するのではなく、やる姿を見せながら子どもたちのやってみよう、やってみたいの気持ちを育てることが大切だと感じる。その時に子どもたちの気持ちを尊重し、一緒にやることやできる環境を作っていきたいと思った。にんじんを調理する工程では自分たちの収穫したにんじんを一緒に調理することができ、嬉しそうだった。これからも食の循環を大切にしていきたい。